光と闇の契約

skyry

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
光と闇の契約

【Ｎコード】
Ｎ９０４６Ｙ

【作者名】
ｓｋｙｒｙ

【あらすじ】
ある日森で散歩をしていたリメルは一人の少女と拾い、屋敷へ連れ帰る

少女は人間ではなくロボットで、悪魔と契約を結んでいるらしい

悪魔と少女（ロボット）の関係を調べるために地獄界へ……

一話　謎の少女

三月十二日。

森で散歩をしていたところ、何やら呻き声のようなものが聞こえたものだからその方向に向かえば、黒いコートに身を包んだ少女が倒れていた。

さすがに素通りする訳にもいかず、リメルは少女の肩を揺すり、声を掛けた。

「おい、大丈夫か」

しかし反応はなかった。

息はしているから、死んではいないだろう。

しかし、さすがに森で倒れている人間、ましてや少女をこのまま放っておくわけにもいかず、屋敷に連れていくことにした。

少女を背負おうと軽く起き上がらせると、これはまた驚いた。

少女の体型に合わず、随分と軽いのである。

別に少女が太いとかそういう意味ではない。

身長はかなりあるはずなのだが、中身が空のようだ。本当、軽すぎる。

そう思いつつ、少女を背負う。

少女は圧倒的にリメルより身長が大きかったので、少し苦戦はしたが、なんとか屋敷まで運べた。

屋敷に着くと、執事であるセンリがリメルと少女を出迎えた。

「お帰りなさいませ、お嬢様。と、その御方は……？」

リメルが背負っている見馴れない少女の事が気になったのか、誰かと問われたが、今のリメルにはそれに答える余裕がなかった。

「それはあとでいい……。手を貸せ……っ」

さすがに少女を背負ったまま約二キロもの道のりを歩いてくるのは無理があったようだ。肩と腕が痛い。

「この御方はどなたですか？」

少女をソファーに寝かせ、センリが問う。

誰だと聞かれても、赤の他人としか答えようがない。リメルもたった今会ったばかりなのだから。

「さぁな」

そう答えるとセンリは溜息を吐いた。

「また道端で倒れていた方を連れ帰ったのですね」

「仕方ないだろう。倒れている奴を見て放っておくわけにはいかないだろう」

「まったく……。お人好しなんですから」

そう言うセンリの顔は、少し笑っていた。

「それよりこの少女、軽すぎないか？中身が空のようだお前も抱き上げて思わなかったか？」

ふむ、と、リメルの言葉に少々考え込むセンリ。

「確かにそうですね。もう何日も口にしていないという事も有り得ますね」

「その前に、この少女が目覚めなければ話も何もないだろう」

確かにそうであった。

このまま少女が目覚めるまで待っているのが嫌になったリメルが席を立ち上がった瞬間だった。

「おや」

少女のつぶらな瞳が、大きく開かれたのだ。

「起動中。起動中。……起動完了。御主人様、御名前をどうぞ」

起動完了と言うなりリメルに名前を問う少女らしき人物。もはや人であるかどうかも分からないが。

「……僕か？」

「はい、御主人様」

「……リメルだ。リメル・アルビスだ」

何だかメイドが出来たような気分だった。

「……メモリーカード、確認。ＬＱＳ３０００、起動中」

機械のように、よく分からない言葉を無表情で話し出す少女。

「……この少女、頭大丈夫か？」

「い、いえお嬢様……。これはもはや人間ですらないです」

どこまでも天然なリメル。

「リメル様。記録中。記録中」

「近くで見れば見るほど、ロボットのようだな」

「ですからロボットですと……」

センリの言葉など聞き入れず、まじまじと少女を見つめる。

「記録完了」

「一つ聞くぞ」

「何でしょう、リメル様」

相変わらず無表情のままの少女の姿をしたロボット。

「お前は、一体何だ？」

「ちょっ……お嬢様！」

直球に聞くリメル。こういうのを毒舌というのか、何というのかはまた別の話で。これがリメルなので仕方ない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9046y/

光と闇の契約

2011年11月27日01時52分発行